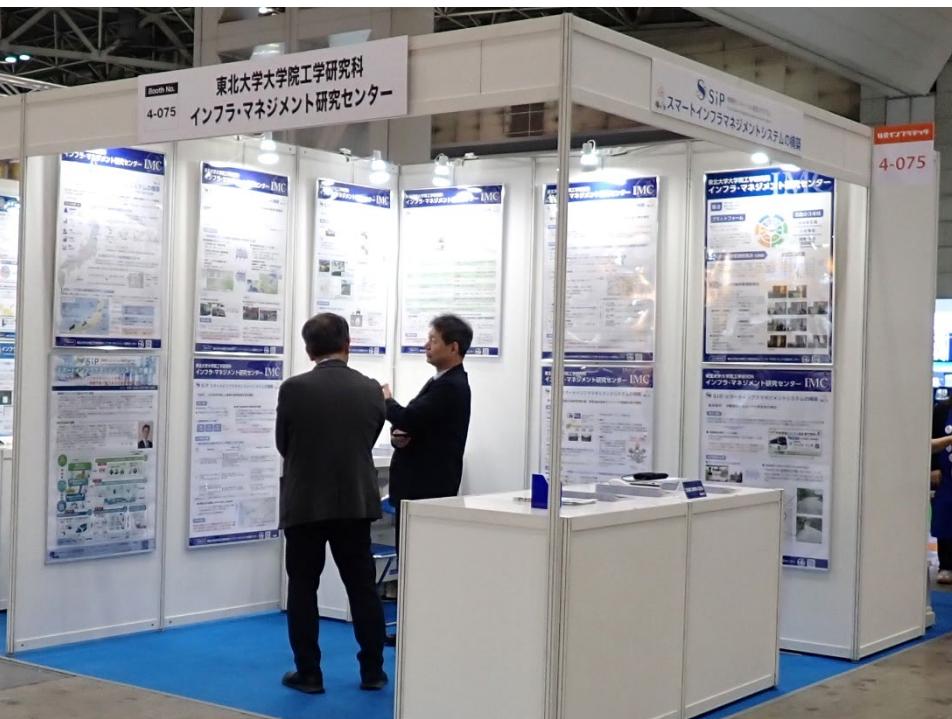
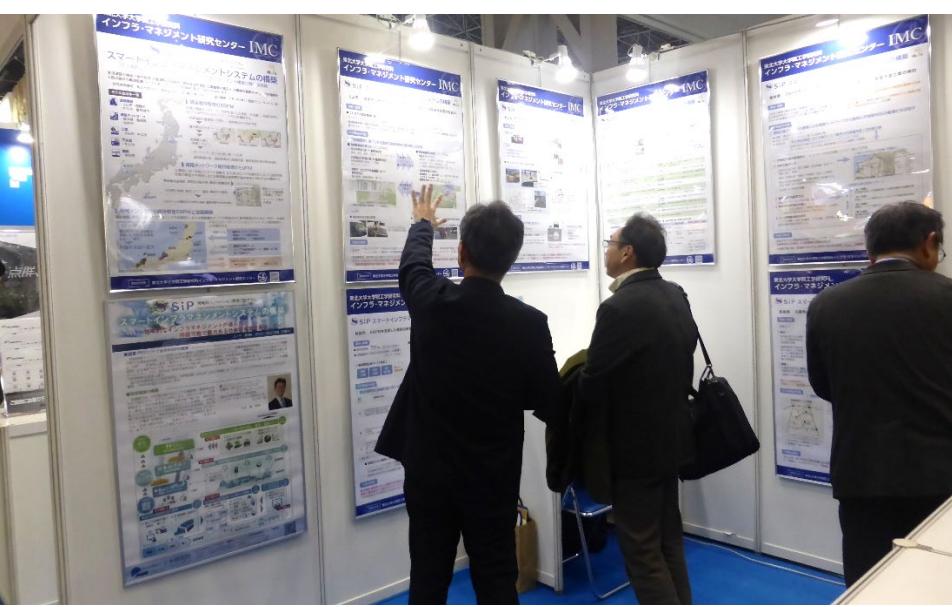




東北大学大学院工学研究科

インフラ・マネジメント研究センター

Center for Infrastructure Management Research, Tohoku University

SDGs Week EXPO2025 社会インフラテック	
日 時	2025年12月10日(水)～12日(金) 10:00～17:00
場 所	東京ビッグサイト東展示棟(東京都江東区有明3丁目11-1)
内 容	社会インフラテックは、インフラメンテナンス国民会議との共催で、道路・橋・施設などの維持管理や老朽化対策に関する技術・ソリューションを紹介します。(イベントWEBサイトより)
来場者数	SDGs Week EXPO 全体: 59,873人 / IMC ブース: 約300人
状況写真	<p>2023年度から参画している内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期」での活動内容の紹介を行いました。ブースでの紹介パネルの展示および、出展者プレゼンテーションにてPRを実施。プレゼンテーションでは、SIPプロジェクトの協力自治体担当者にも登壇いただき、それぞれの自治体での取り組み紹介をしていただきました。</p>   <p>△展示ブースの様子</p>



SDGs Week EXPO2025 社会インフラテック

【出展者プレゼンテーション】



東北大学大学院工学研究科  
インフラ・マネジメント研究センター  
Center for Infrastructure Management Research, Tohoku University

Presentation

環境・インフラ・脱炭素 社会課題解決展  
SDGs Week EXPO 2025

第8回インフラ維持管理・老朽化対策展

**社会インフラテック2025**

出展者プレゼンテーション

日時：2025年12月11日(木) 15:00～15:40

講演タイトル

EBPMによる地域インフラ群マネジメント技術の自治体での活用

東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター  
特任教授 楠葉 貞治

(1) 山形県上山市

「道路特性に応じたエビデンスに基づく道路維持管理の取り組み」

(2) 山形県南陽市

「山形県南陽市のEBPMの取り組み」

(3) 茨城県牛久市

「EBPMを活用した道路管理手法の検討

～道路と下水道の日常点検一元化を視野に入れて～」

(4) 秋田県大仙市

「EBPMを活用した公園の維持管理の検討」

(5) 福井県

「EBPMを活用した緊急輸送道路における  
被災リスク箇所の対策優先度立案の検討」

© Center for Infrastructure Management Research, Tohoku University



△会場の様子



△SIP 研究代表者(IMC)



展示パネル：SIP プロジェクトの概要（全体）

**SIP 戰略的イノベーション創造プログラム**  
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program

## スマートインフラマネジメントシステムの構築

～効率的なインフラマネジメントが進んだ  
持続可能で魅力ある社会の実現を目指して～

SIP 第3期 2023～2027年度（五箇年）

### ■国家プロジェクトで進めるSIPの概要

科学技術イノベーション実現のために創設した国家プロジェクトとして、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮して、府省の枠や旧来の分野を超えたマネジメントにより、「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」を実施します。国民にとって真に必要な社会的課題や、日本経済再生に寄与できるような世界を先導する課題に取り組むものです。令和5年度からは第3期として、14課題に取り組み、各課題を強力にリードするプログラムディレクター（PD）を中心に産官学連携を図り、基礎研究から実用化・事業化、すなわち出口までを見据えて一気通貫で研究開発を推進します。

国立研究開発法人土木研究所は、SIP第3期（2023～2027年度）の「スマートインフラマネジメントシステムの構築」の研究推進法人を担当します。

### ■研究課題の概要

本課題では、わが国の膨大なインフラ構造物・建築物の老朽化が進む中で、デジタル技術により、設計から施工、点検、補修まで一體的な管理を行い、持続可能で魅力的・強靭な国土・都市・地域づくりを推進するシステムを構築し、効率的なインフラマネジメントを実現するための技術開発・研究開発に取り組みます。特にSociety5.0の中核となる“デジタルツインの構築”を開発のコアとして考え、技術開発にあたっては「未来の建設技術」、「未来のインフラ」、「未来のまち」をアウトプットとして常にイメージします。

■プログラムディレクター（PD）  
内閣府・SIPスマートインフラ  
プログラムディレクター  
(東北大学大学院 工学研究科  
インフラ・マネジメント研究センター  
センター長)

久田 真 教授



国立研究開発法人 土木研究所  
PUBLIC WORKS RESEARCH INSTITUTE

戦略的イノベーション研究推進事務局（SIP事務局）  
<https://www.pwri.go.jp/jpn/research/sip/index.html>  
(東京オフィス) 東京都千代田区神田相生町1 秋葉原センターブレイスビル4F  
Tel. 03-3518-5360 (代表)





SDGs Week EXPO2025 社会インフラテック

展示パネル：SIP プロジェクト東北大チームの概要、社会実装紹介

## 東北大大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター IMC

### SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築

サブ課題 E:e-2:EBPMによる地域インフラ群マネジメント構築に関する技術

生活道路や橋梁の維持管理、自動運転バス経路の舗装安全性確認、公園整備の適正化、災害時の道路ネットワークの強靭化と防災拠点の最適配置などを対象として、これらの計画等の策定にEBPMを活用します。

○ 研究開発機関：東北大IMC / 福井コンピュータ(株) / (株)IML ○ 協力機関：ニチレキ(株) / 西部マリン・サービス(株)

**モデル自治体一覧**

- 道路舗装  
・上山市・南陽市  
・牛久市・豊見城市
- 道路ネットワーク  
・福井県・島根県  
・仙台市
- 公園  
・大仙市・牛久市
- 下水道  
・牛久市
- 橋梁  
・秋田市

**舗装維持管理のEBPM**

地域の道路ネットワーク（市町村道、生活道路）を対象に、地域の特性に応じたEBPMによるメンテナンス手法を構築する。

- 地域道路の重要度の可視化 + 舗装健全性の将来予測
- 優先順位の分析ツール
- 修繕優先順位（路線）の出力
- 行政プロセスにおける計画立案への反映
- ・道路整備計画・舗装長寿命化修繕計画・個別施設計画の都度見直し

**道路ネットワーク維持管理のEBPM**

災害時における被災リスクや避難所、防災拠点などの地域特性に応じた道路啓閉計画の策定や平常時における緊急輸送道路網の維持管理の検討手法を構築する。

緊急輸送道路網、道路防災点検、橋梁の耐震性能、GISシステム

迂回路の有無、被災リスク（道路・橋梁の耐震性）、EBPMによる事前防災対策の推進・道路啓閉の実施

## 東北大大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター IMC

### SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築

上山市 南陽市 地域特性に応じたエビデンスに基づく道路維持管理の取組み

**現状・課題**

- これまでの道路整備計画
  - 主にエビソードベースによるもので経験則に大きく左右され、中・長期的なエビデンスに基づく計画が不足。
  - ・側溝整備事業や道路改良事業については、各地区的要望書に基づき検討し、実施するかどうかを決定。予算規模に合わせて振り分けをしている場合もあり、住民要望に対し優先度の説明が不明瞭。

**SIP 取組み内容**

#### ○ 路線重要度に基づく生活道路の舗装補修の優先順位の計画

**■ 路線重要度の考え方 [ マニュアル化 ]**

- ・生活利便性に基づく重要度設定  
通勤、通学、通院、住民サービスへのアクセス
- ・立地適正化計画に基づく重要度設定  
産業振興等の政策、人口動向、防災グリーダーマップ
- ・南陽市、上山市の共通課題に基づく重要度設定  
観光産業、農業振興等（群マネ）

**考慮すべきファクター、重み係数の設定**

**■ 路線重要度の設定 [ ソール作成 ]**

- ・考慮するファクター  
道路網、バス道路、除雪道路、舗装健全度、公共交通設施、学校、医療機関、人流、人口動態、舗装健全度の将来予測、等
- ・路線重要度の数値化  
路線番号 : n、基本点数 : a、ファクター数 : m  
ファクターの係数 :  $\omega_i$   
重要度点数(n) =  $a(n) \times \sum_{i=1}^m \omega_i(n)$

**上山市**

◆ 舗装健全性の現状把握

GLOCAL-EYEZ を用いた路面性状調査

△ 補修対象路線の重要度リストと路線図（サンプル）

**南陽市**

◆ 路線重要度に基づく生活道路の舗装補修の優先順位の計画を策定

舗装延命化のための試験施工を実施

**今後の展望**

**上山市**

- ・GLOCAL-EYEZ を路面性状調査や日常パトロールに活用して、変状データの取得を進める。
- ・路線重要度に舗装健全性の現状や GLOCAL-EYEZ で得られたデータを分析した将来予測を加味して優先順位を設定し、舗装個別施設計画の随時見直しを実施する。

**南陽市**

- ・路線重要度や人口増減指標を考慮した計画を策定し、EBPMによるエビデンスに基づいた予算配分の効率化実現を目指す。
- ・優先順位の低い修繕工事予算が付かない箇所への舗装延命化工の適用に取り組む。



SDGs Week EXPO2025 社会インフラテック

展示パネル：SIP プロジェクト東北大チームの社会実装紹介

東北大学大学院工学研究科

インフラ・マネジメント研究センター IMC

SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築

秋田市 EBPMを活用した橋梁の維持管理手法の検討

現状・課題

- 管理道路橋：711 橋（2023年3月時点）
- 早期修繕すべきⅢ、Ⅳ判定の修繕率：約 84%（2024年3月時点）

【維持管理全体のコスト増加】



■ 現行の橋梁長寿命化修繕計画の課題

- 主に橋の規模・構造が優先された考え方で管理区分が分類されており、交通量などの周辺環境や利用実態に合わない管理区分に振り分けられた橋も存在する。
- 管理水準の考え方を明確化できていなかったため、健全性の診断区分の判断が難しい。

予防保全型メンテナンスサイクルへの転換を図るために  
利用実態に合わせた管理水準の設定が必要

SIP 取組み内容

○ 橋梁長寿命化修繕計画の新たな管理区分（案）の検討

管理区分	重要度の視点	※役割の変化に応じて管理区分も変更	維持管理方針（管理水準）
A	社会経済活動の維持・向上や防災上の観点から社会的必要性が高い橋梁（重要度が高く、集約撤去の対象外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緊急輸送道路、重要な河川道路</li> <li>● 広域農道 ● 1級市道 ● バス路線</li> <li>● 獨立集落アセスルート（集落の世帯数〇以上）</li> <li>● 都市計画道路、都市機能誘導道路</li> <li>● 公共施設、重要な施設、競り譲渡点</li> <li>● 歴史的、文化的価値のある橋梁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機能低下を防止し、橋種、規模に応じたLCCが最適となるように各レベルでの維持管理</li> </ul>
B	日常生活で利用される身近な道路に存在する橋梁（A、Cの中間に当たる橋梁）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常路 ● 獨立集落アセスルート</li> <li>● 2級市道 ● 周辺人家数</li> <li>● 交通量</li> </ul>	
C	社会経済情勢の変化に伴い、必要性・役割が低下した橋梁（機能縮小・集約撤去を見据えた維持管理） ※〇年以内には、集約撤去を見据える役割が集落内の行き来のみ等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 往回距離 ● 周辺人家数</li> <li>● 獨立集落アセスルート</li> </ul>	

※ 橋種・規模に応じたLCCが最適となる長寿命化対策：橋長が短く、補修を続けるよりも定期的な点検による早期修繕が効率的

■ 管理区分の分類時に EBPM を活用した検討内容

- オープンデータなどを基に交通量や人口推移など橋梁利用頻度を整理し、そのデータを基に検討
- 現実的に許容できる往回距離の検討

今後の展望

橋の役割・重要度に応じた管理水準を設定し、役割に応じて「機能縮小・集約撤去の必要性」をエビデンスに基づき適切に考慮できる実効性のある管理区分の設定に向け、検討を進める。

東北大学大学院工学研究科  
インフラ・マネジメント研究センター IMC

SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築

大仙市 EBPMを活用した公園の維持管理の検討

現状・課題

104ヶ所もある公園をもっと効率的に整備したいが…

課題

- 少子高齢化や人口減少
- 財政難による資金不足
- 住民や町内会から多数の要望 etc.

SIP 取組み内容

○ EBPMに基づいた公園の管理区分の設定

【管理区分設定の着目要素】

利用者の視点

- アクセス性
- 車駐場がある
- 施設・清潔
- 道具の安全性
- 周辺の利便性

管理者の視点

- 維持管理費用・老朽化度合・耐震性能
- 利用人数・予約件数・将来の都市計画
- リスク管理・資産価値・適應地の利用
- 環境への影響・歴史・文化の価値・地域拠点公園
- 生活圏点等との距離・周辺の人家の数・経済的影響

【公園の役割分類・分類指標・使用データ】

公園役割の分類	分類の指標	分類に用いるデータ
①防災性向上	避難場所に指定／物資集積・危機指揮／防火帯なしの役割／防災設備の設置／災害発生時のヘリポート／仮設住宅用地	・大仙市資料：公園の位置・寸法（防災拠点、避難所の指定）／地域防災計画（指定緊急避難所、緊急輸送路線、他）
②環境維持・改善	都市緑化／ヒートアイランド低減／生物多様性の保全／土壤の保全と浸食防止／緑色の縦貫	・大仙市資料：都市計画マスターplan（公園緑地）／都市計画公園（緑地）
③健康新規・レクリエーション空間提供	身体活動の促進／精神的健康の向上／子供の健全な成長促進／高齢者の健常維持・レクリエーション活動／文化イベント／地域コミュニティの形成	・オープンデータ：将来推計人口データ（公園周辺の児童数、高齢者数の現状と将来予測）
④景観形成	都市景観の向上／地域の特徴や魅力の強化／景観美の創出／視覚的な隣接／四季折々の景観／荒廃地の再生・美化	・国交省資料：流域及び川の自然環境
⑤文化伝承	地域の文化活動の場／伝統工芸や技術の展示／記念碑や歴史的建造物の保存	・大仙市資料：文化財一覧（城跡公園）
⑥子育て教育効果	身体的発達の促進／社会性の育成／完成と創造力の刺激／教育的な体験／親子の絆を深める	・オープンデータ：将来推計人口データ（公園周辺の児童数の現状と将来予測）
⑦コミュニケーション	交流の場／イベントや活動の開催	・大仙市資料：公園使用許可申請（予約件数、利用日数、利用者区分、利用目的）
⑧観光振興	公園自体が観光名所／イベントやアクティビティ／地域の認知度	・大仙市資料：観光振興計画（「大曲の花火」公園、八乙女公園（桜の名所））
⑨経済活性化	観光産業の促進／商業活動の促進／不動産価値の向上／イベント経済効果	同上（集客、周辺地盤の経済効果）

【管理区分の設定】 ■ 公園の役割分類と管理区分設定の例

公園	分類指標とデータ	役割の分類	再評価・管理区分の設定
A	地域防災計画で避難場所、臨時ヘリポートに指定	① 防災性向上	
	③ 健康・グリーン（公園内遊具がある、または周辺の65歳以上人口が50人以上、公園名に自然を冠する）	③ 健康・グリーン（役割：多様・明確・地域拠点）	管理レベルを <b>上げる</b>
	周辺の14歳以下人口が50人以上、公園名に自然を冠する	⑥ 子育て教育	
B	秋田県の「雄物川 30景」の選定箇所	④ 景観形成	（役割：明確・継続的） 管理レベルを <b>維持する</b>
	役割の分類に該当しない	⑤ その他	（役割：不明確・転用性低） 管理レベルを <b>下げる</b>

今後の展望

公園施設の長寿命化計画改定のためのツールの一つとして、維持管理業務に適用する。



SDGs Week EXPO2025 社会インフラテック

展示パネル：SIP プロジェクト東北大チームの社会実装紹介

**東北大大学院工学研究科  
インフラ・マネジメント研究センター IMC**

**SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築**

**牛久市 EBPM を活用した道路管理手法の検討：**  
道路と下水道の日常点検一元化を視野に入れて

**現状・課題**

**道路点検**

- 目視点検
- 職員による簡易橋梁点検（1年に1度）
- 路面性状調査、橋梁点検（5年に1度）

**下水道点検**

- 目視点検
- カメラ調査（計画に基づいて）
- カメラ調査（腐食性5年に1度）

**課題**

- 生活道路等の道路舗装の劣化が顕著
- 技術系職員の確保
- 全ての管路の状態把握は困難

市内では小規模ではあるが  
水道や下水道、転圧不足等を  
原因とした陥没が発生して  
いる。

道路も下水道も  
同じ場所にあるのであれば  
一元管理ができるか？！

■ GLOCAL-EYEZを用いた路面性状調査の実証をスタート！（2025年2月18日から実証開始）

新たな実証の開始

■ GLOCAL-EYEZ（スマートフォンによる道路点検DXシステム）の活用

これは、地方自治体等が、道路・下水道などインフラごとに実施していた点検や診断を、スマートフォンで撮影したデータを用いて一元管理するほか、保守の重要度を設定すること

**東北大大学院工学研究科  
インフラ・マネジメント研究センター IMC**

**SIP 取組み内容**

○ 道路陥没の予兆を早期に発見する

路面データ（GLOCAL-EYEZなど）

道路 下水道

→ 路面上に生じている違和感と管路損傷の位置  
データを整合させ、空洞のあたりづけを試みる。

今後の展望

- 市の防犯パトロール車など複数の車両でデータを収集し、より広範囲
- 道路と下水道の点検データを一元管理することで、道路陥没の予測

**福井県 EBPM を活用した緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策優先度立案の検討**

**現状・課題**

道路防災事業の事前対策は、経験則に大きく左右され、公共施設点検結果等のデータを基にした被災箇所の対策優先度の設定など、中・長期的なエビデンスに基づく計画が不足している。

・公共施設の効率的な維持管理や災害復旧業務の効率化が急務  
・能登地震などの事例も踏まえて、平常時から大規模災害時への事前対策をすることが必要

**SIP 取組み内容**

○ 道路灾害データとの連携による道路ネットワークの災害時と平常時対応の最適化を目指す

- 対象：道路ネットワーク
- 方法：EBPM（エビデンスに基づく政策立案）
- 実施内容：
  - 「緊急輸送道路における被災リスク箇所の対策優先度」の計画立案
  - 施設実施を支援するためのガイドライン（マニュアル）作成
  - データ分析ツール（GIS分析と維持管理システムの連携）の開発

① 対策優先度の評価単位：ネットワークの交点間（リンク）単位で評価

② 分析対象データ：

- 道路防災総点検（落石・崩壊、岩石崩壊、地すべり、雪崩、盛土、擁壁）
- 橋梁の耐震性能（性能3未確保、性能2未確保）
- 橋梁の定期点検結果（大規模地震時に影響する活荷重・地震に対する技術的評価B.C）
- 交通量（24時間交通量）

【GISシステムにて分析・可視化】

③ 優先順位の設定方法：

- 右図フローにてリンクを分類
- 閉塞可能性評価点を算出  
リンク毎に法面・斜面および構梁の被災リスクを点数化し、交通量別の補正係数を乗じて算出する。
- リンク閉塞影響度を評価  
リンクが閉塞した際の影響度（迂回距離）を評価し、最終的に優先順位を設定する。

【対策優先度の設定フロー】

- (第1段階) 緊急輸送道路上の耐震性能3未確保橋梁の耐震対策
- (第2段階) 閉塞ルート(24時間以内)上のリンクの優先順位検討
- (第3段階) 閉塞ルート(72時間以内)上のリンクの優先順位検討
- (第4段階) 緊急輸送道路(閉塞ルート以外)上のリンクの優先順位検討

今後の展望

- 対策が完了した雨量規制区间について、降雨量や災害履歴なども含めたデータを追加して被災リスクを設定し、雨量による交通規制などの見直しと災害業務の効率化を図る。
- 大規模災害に備え、緊急時においても EBPM の手法を活用し、災害復旧業務の効率化を目指す。



SDGs Week EXPO2025 社会インフラテック

展示パネル：SIP プロジェクト東北大チームの社会実装紹介

## 東北大大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター IMC

### SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築

島根県 災害時の道路啓開計画、緊急輸送道路ネットワーク整備計画の検討

現状・課題

啓開ルート

【現状】

- 発災後、速やかに啓開ルートの緊急点検・状況把握を実施
- 道路管理者が被災状況に対応した啓開ルートの優先順位を決定 ⇒ 建設業協会等へ啓開指示

【課題】

- 大規模災害時は、職員・建設業者ともに被災を受けている可能性が高く、人員不足になる可能性が高い
- 啓開完了は業者作業に依存しているなど

限られた時間の中で「啓開ルートの優先順位」を決定しなければならない

SIP取組み内容

○ 啓開ルートおよびネット

緊急輸送道路ネットワーク構成図

これまでのリスク

リンクの閉塞箇所

○ 要対策箇所:未耐震橋梁・劣化橋梁  
X 閉塞箇所(通行止め箇所)

今後の展望

防災点検(要対策箇所、橋梁耐震性能、橋梁健全性)の箇行、啓開ルートおよびネットワーク整備の優先順位を決

緊急輸送道路ネットワーク整備計画

【現状】

- 各事業ごとに設定した整備率を目標として事業推進 ⇒ 個別事業ごとに指標(落石等通行危険箇所整備率、橋梁の耐震化率、橋梁の修繕率など)を定め、目標値を設定して整備を推進

【課題】

- 道路防災インフラ老朽化対策などは、整備率(全体対策箇所数 / 全体対策箇所数)を目標としており、ネットワーク整備の観点は乏しく防災上のボトルネックが生じる恐れがある
- 路線区間(以下、リンク)の途絶による影響を評価している

島根の「つなぐ道プラン2020」

## 東北大大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター IMC

### SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築

豊見城市 自動運転バスルートの安全性の検討

現状・課題

■ 自動運転移動サービスの導入

- 地域公共交通確保維持改善事業(国土交通省)に採択(2024年度)
- 現在運行する豊見城市内一周線において、自動運転バスのレベル4による運行を実現し、本市の公共交通手段の確保や公共交通の利便性向上による地域活性化を目指す

自動運転EVバスの実証運行開始

沖縄県初! 生活路線での自動運転!  
毎日運行  
10月8日(土)~11月1日(火)

△ 豊見城市 WEB サイトより(2024年9月17日公開)

SIP取組み内容

■ GLOCAL-EYEZによる道路点検

GLOCAL-EYEZの管理画面より、調査結果の確認と補修箇所を抽出

点状指標

オブジェクト指標

今後の展望

取得データを利活用し、自動運転バスルートの更なる安全性に寄与する。



展示パネル：IMC 取組み紹介

# 東北大学大学院工学研究科 インフラ・マネジメント研究センター

## 設立

2014年1月15日  
東北大学大学院工学研究科内に設立  
工学研究科内で初めて設立された産学官連携センター

## プラットフォーム

東北インフラ・マネジメント・  
プラットフォーム (TIMP)

大学をはじめとする研究機関や企業、法人、省庁、自治体が横断的に情報交換を行い、各々の持てる力を社会のために活かしきるためのプラットフォームを構築、運営・展開を行っています。



## 活動の3本柱

自治体支援

人材育成

調査・研究  
技術開発

## インフラ維持管理勉強会 の開催

自治体職員を対象とした勉強会（先進自治体の取り組み紹介・施設見学・専門家とのディスカッション等）を実施し、現場でのニーズや課題等の抽出を行い、それらを解決するため、大学や東北インフラ・マネジメント・プラットフォーム (TIMP) の参画機関が持つシーズとのマッチングを実施しています。

### これまでの開催

- ▶ 第1回：2017年12月4日
- ▶ 第2回：2018年5月17日～18日
- ▶ 第3回：2018年10月29日～30日
- ▶ 第4回：2019年11月8日
- ▶ 第5回：2022年1月14日
- ▶ 第6回：2023年11月21日
- ▶ 第7回：2025年1月9日

## 第8回インフラ維持管理勉強会

- 日程：2025年11月21日(金)
- 場所：東北大学片平北門会館
- 内容：先進自治体から取り組み紹介をいただき、自治体間の情報共有の場を提供するとともに、インフラ維持管理の現場の方々のニーズや課題等を抽出し、今後の研究の参考とすることを目的として開催しました。

### [事例紹介(自治体)]

○SIP協力自治体

- ・福井県
- ・山形県上山市
- ・山形県南陽市
- ・秋田市大仙市
- ・茨城県牛久市

### ●連携自治体

- ・山形県
- ・福島県南相馬市
- ・神奈川県小田原市
- ・島根県浜田港湾振興センター

### [特別講演]

福井県 土木部・部長

### [話題提供]

- 共同研究部門
  - ・福井コンピュータ
  - ・ニチレキグループ
- 連携協定機関
  - ・ネクスコ・  
エンジニアリング東北



お問い合わせ先

東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター

